株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

株主通信

2024年11月

YBHD NEWS
No.68

株主の皆様へ

To Our Shareholders

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに株主通信「YBHD　NEWS」第68号をお届けいたします。

当中間連結会計期間は、売上高および営業利益は当初の想定を下回る結果となりました。橋梁事業は手持ち工事が順調に進捗し、売上高は過去最高となった一方で、設計変更などの上振れ要因が少なく、営業利益は伸び悩みました。

エンジニアリング関連事業につきましては、主にシステム建築事業で生産量が少ない状況が続いたことから、売上高・営業利益ともに当初予想を下回る結果となりました。

受注状況につきましては、橋梁事業は、新設橋梁の発注量が伸び悩む中、国土交通省案件や民間案件等の大型工事を複数受注することができ、受注高は上半期としては過去最高の520億円となりました。受注目標額である1,000億円に向けて、下半期もシェアの拡大を目指してまいります。システム建築事業につきましては、建設コスト等の上昇により設備投資計画の延期や見直しが散見される状況が続き、当初の想定を下回りました。

通期の見通しとしましては、上半期のシステム建築事業の受注の伸び悩みにより、売上高を当初想定の1,700億円から1,650億円に修正いたしました。営業利益につきましても、橋梁事業の設計変更等による改善を見込んでおりますが、エンジニアリング関連事業は上半期の遅れの影響が残るため、当初155億円としていた予想を140億円に修正いたしました。

このように、売上高は前期比でほぼ横ばい、営業利益は減益の想定としており、第６次中期経営計画で掲げた右肩上がりの成長を示すことが難しい状況となっております。しかしながら、橋梁事業を中心に着実に受注残高が積みあがっており、来年度から始まる第７次中期経営計画で良いスタートが切れるよう、引き続き基幹事業を中心に更に受注の拡大を図ってまいります。

株主還元につきましては、20億円の自己株式取得を行うとともに、累進配当の方針を踏まえ、減配せず、年間110円の配当とすることを予定しております。

今後も、持続的に成長できる企業グループに進化することを目指し、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年11月

代表取締役社長
髙田 和彦

連結財務ハイライト

Financial Highlights

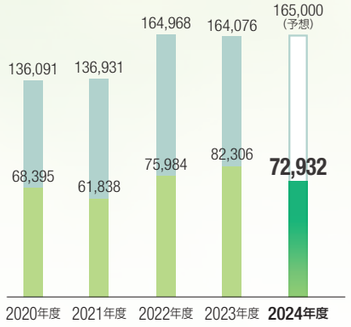
橋梁事業の受注は国土交通省案件や民間案件を中心に好調であり、過去最高水準で推移しております。

一方で、施工中の工事につきましては順調に進捗しているものの、上半期は設計変更等の上振れ要因が少ない状況が続き、利益は伸び悩みました。

また、システム建築事業につきましては、足元の受注状況は回復傾向にあるものの、生産量が少ない状況から抜け出すことができず、当社グループ全体では当中間連結会計期間において、前年同期比で減収減益となりました。

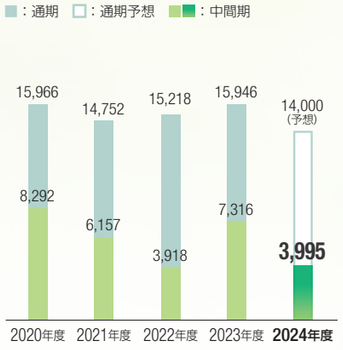
売上高

(単位:百万円)



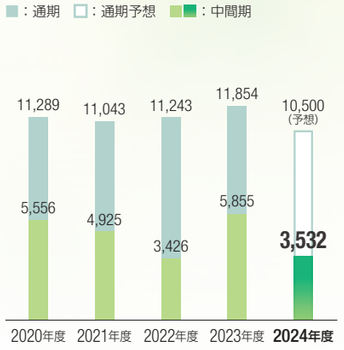
営業利益

(単位:百万円)



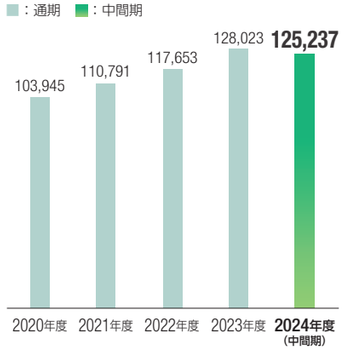
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



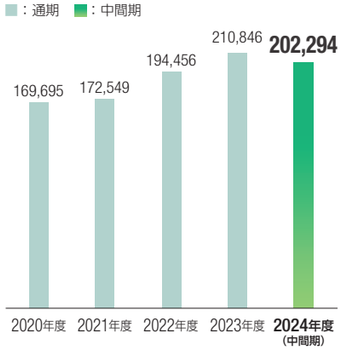
純資産

(単位:百万円)



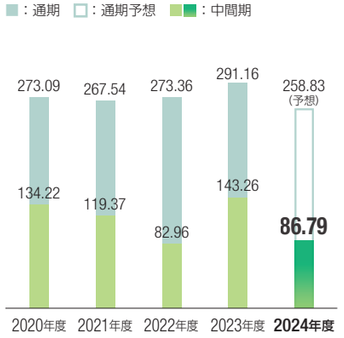
総資産

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益

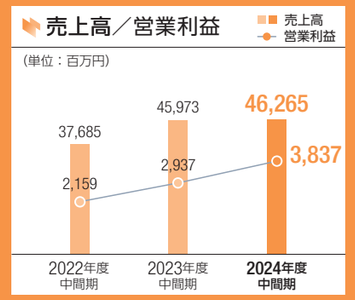
(単位:円)



事業の概況

Business Overview

橋梁事業

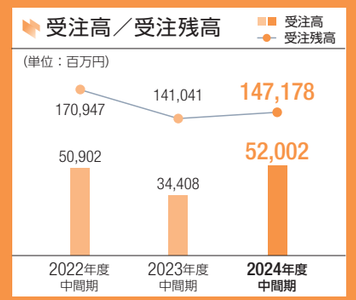


売上高

45,973百万円 ➡ 46,265百万円

営業利益

2,937百万円 ➡ 3,837百万円



受注高

34,408百万円 ➡ 52,002百万円

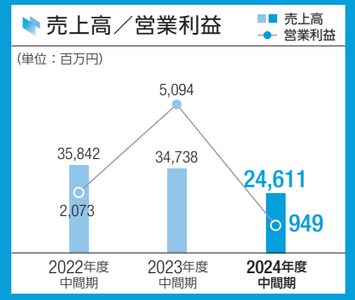
受注残高

141,041百万円 ➡ 147,178百万円

厳しい受注環境が続く中、当第2四半期（2024年7月1日～2024年9月30日）においても大型工事を受注することができ、おおむね想定通りに推移しました。当中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）における受注高は過去最高を更新し、520億円（前年同期比51.1％増）となりました。

また、豊富な手持ち工事が順調に推移した結果、売上高は462億6千万円（同0.6％増）、営業利益は38億3千万円（同30.7％増）となりました。

エンジニアリング関連事業

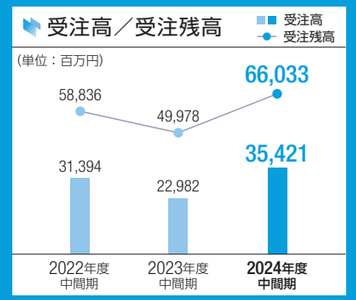


売上高

34,738百万円 ➡ 24,611百万円

営業利益

5,094百万円 ➡ 949百万円



受注高

22,982百万円 ➡ 35,421百万円

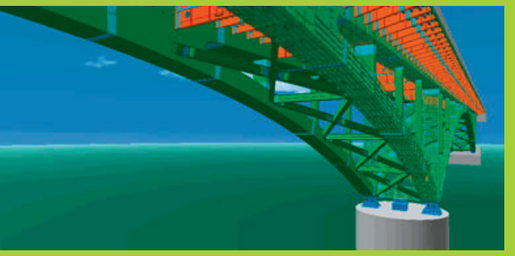
受注残高

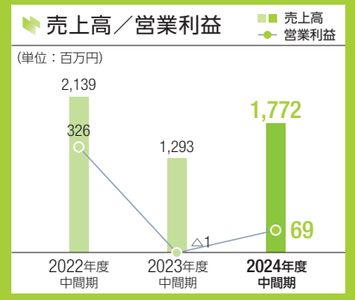
49,978百万円 ➡ 66,033百万円

事業全体の受注高は土木関連事業の大型案件により、過去最高の354億2千万円（前年同期比54.1％増）となりました。システム建築事業につきましては、依然として設備投資計画の延期や見直しが散見され、受注は想定を下回って推移しました。その一方で持ち直しの動きも出てきており、下半期に向けて確実に需要を取り込んでまいります。

事業全体の売上高は246億1千万円（同29.2％減）、営業利益は9億4千万円（同81.4％減）に止まりました。

先端技術事業



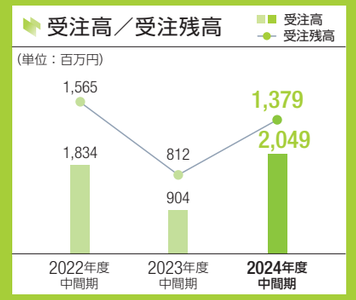


売上高

1,293百万円 ➡ 1,772百万円

営業利益

△1百万円 ➡ 69百万円



受注高

904百万円 ➡ 2,049百万円

受注残高

812百万円 ➡ 1,379百万円

精密機器製造事業において受注が回復し、受注高は20億4千万円（前年同期比126.5％増）、売上高は17億7千万円（同37.1％増）、営業利益は6千万円（前年同期は1百万円の損失）となりました。

TOPICS 01

DXを用いた建設現場の生産性向上の取り組み YBC

株式会社横河ブリッジは、鋼橋の設計から製作、架設、維持管理を担う総合エンジニアリング会社であり、そのすべての生産過程においてDXを積極的に推進しています。当社のDXの取り組みの一部をご紹介します。

上部工ワンマン測量システム オートレポ

本システム※は、出来形計測から帳票作成までをワンマンで実施可能とするものです。計測から帳票作成までの作業時間を従来比で60％削減し、現場での出来形管理業務の大幅な省力化を実現しました。

通常の出来形計測には最低でも2名が必要ですが、本システムでは、計測者が測量に使用する機器であるトータルステーションを設置し、操作タブレットが一体となった360°プリズムを持つことで、ワンマンでの出来形計測が可能です。

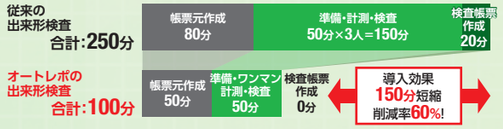
計測結果は、出来形管理帳票に自動出力できる仕様となっています。従来は計測データを作業後に転記する必要があり、転記ミスが生じるリスクがありました。本システムでは、計測データが所定のフォーマットに自動的に記録されるため、転記ミスや測り忘れを防止できます。また、事前に入力した管理値との比較が可能であり、出来形不足の洗い出しも容易です。

計測状況

小型リモコンとタブレットにより操作性・視認性が向上

※株式会社ソーキと共同開発、株式会社ソーキは本システムの仕様等の技術的な開発を担う

▶作業時間比較 ※時間は2主観桁1径間を想定



既設部材と新規部材のモデル

干渉確認とセットバック検討

MR干渉確認システム

本技術は、iPadの画面を通じて、現実の構造物上に新規部材のBIM/CIMモデルを投影し、干渉確認を行うシステムです。リアルタイムかつ実スケールでモデルが描画されるため、干渉確認に加え、施工性の確認を容易にできます。また、iPad上でモデルを移動できるため、干渉確認後のセットバック量の検討も簡単です。

従来、既設部材への新規部材の取り付け位置確認は、手計測やフィルムによる方法が主流で、新規部材を3次元的にイメージしながら干渉の有無を検討していました。これは経験に依存する部分が大きく、経験の浅い技術者が干渉物を見落としたり、ベテランでも想定外の支障物を見逃すことがありました。このシステムを活用することで、視覚的に3次元で干渉を確認し、スムーズに設計へ反映することが可能となり、誤作や工程遅延のリスクを低減し、高品質な設計・施工を実現します。

DXエクスペリエンス2024実施報告

『DXエクスペリエンス2024』と題した体験型の社内展示イベントを開催しました。各部門のDX技術を展示し、部門を超えてDXの知見を深めることができるイベントとなりました。他拠点勤務の従業員も参加ができるように中継リポートも行い、大盛況のうち終了いたしました。

開催告知ポスター

TOPICS 02

『開閉屋根』で施設に付加価値を YSC

北区立都の北学園（東京都）

文京区立明化小学校（東京都）

株式会社ブイ・テクノロジー YRPイノベーションセンター（神奈川県）

日光が差し込むトマト農園

可動建築『ＹＭＡ』の詳細はこちら
https://www.yokogawa-yma.jp/

株式会社横河システム建築の可動建築『ＹＭＡ』は、これまでに170以上の施設に採用されてきました。なかでも、開閉屋根は学校や運動公園のプール、運動場、大型スタジアム、野外音楽堂等、様々な公共施設に設置されています。開閉屋根を設置した「全天候対応型」施設では、天候や季節に影響されない運営やイベントの開催が可能となり、稼働率の大幅な向上に寄与しています。また、利用機会の拡大をきっかけに多くの人が施設やその周辺地域を訪れることで「まちおこし・地域活性化」にも繋がっています。

一方で、近年は民間施設への開閉屋根の設置のニーズも高まっています。精密機器メーカーの研究施設「株式会社ブイ・テクノロジー YRPイノベーションセンター」（神奈川県）にも、開閉屋根が設置されています。低層階に半導体製造装置を製造するクリーンルームを備える一方、開閉屋根が設けられた最上階では、多角化経営を目的としたアグリビジネス展開のためのトマト農園が運営されています。開閉屋根はこれまで公共施設での採用が中心でしたが、オフィスビルの最上階・屋上スペースの有効活用・多目的利用の観点から、民間企業による更なる活用も期待されています。

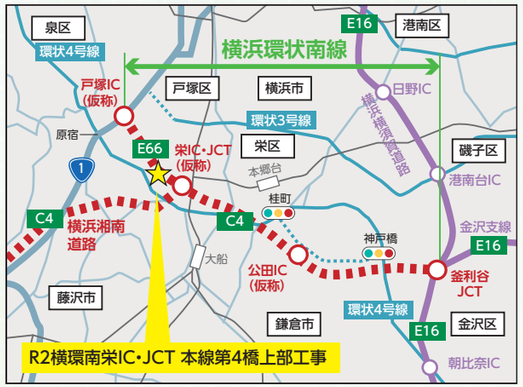
株式会社横河システム建築では、今後も開閉屋根を用いた施設価値の向上への貢献に努めてまいります。

TOPICS 03

R2横環南栄IC・JCT本線第4橋上部工事

YBC YNSE NSS

本工事は、現在建設を進めている高速横浜環状南線の一部である本線第4橋の本線上下線およびBランプ橋・Cランプ橋の橋桁製作・架設工事を、横河ブリッジホールディングスグループによる建設工事共同企業体（株式会社横河ブリッジ・株式会社横河NSエンジニアリング・株式会社楢崎製作所）で施工するものです。



圏央道の一部である高速横浜環状南線は、横浜横須賀道路の釜利谷ジャンクションと国道1号を結ぶ、延長約8.9kmの自動車専用道路です。神奈川県が行っている、低金利融資や不動産取得税の減税措置等で企業誘致を積極的に支援する施策により、圏央道にあるIC周辺には本施策に参加した企業の工場や事業所の約4割が建設されています。高速横浜環状南線の整備で首都圏内陸部へのアクセスが向上することで、沿線への更なる企業誘致促進が期待されています。

工事の特徴

最大径間部分の橋桁下に市道が通っているため夜間通行止め規制を行い、上り線のPUD24～AUD2間は送り出し工法、下り線のPUD24～AUD2間は縦取り・旋回・横取り工法で、計4種類の工法を用いて8本の橋桁を架設します。それ以外の径間はトラッククレーンベント工法で架設します。

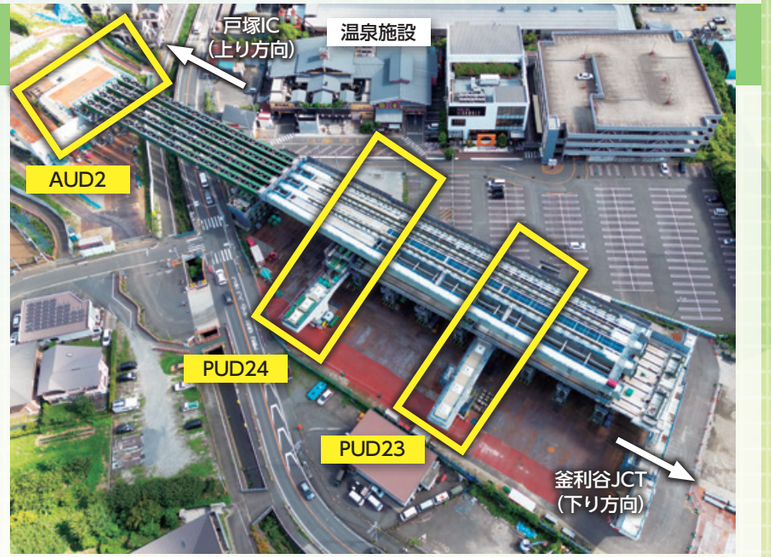
隣接する温泉施設が架設設備や架設する桁から視認できる状況にあることから、視距養生設備を配置して温泉施設が見えないように施工するほか、一部の作業は温泉施設の営業時間外に行うなど、周囲の環境に配慮して工事を進めています。

また、当現場では、BIMやCIM※（3次元モデル）を活用して、本工事で扱う難易度の高い架設工法を誰が見ても理解できるような動画を作成し、作業前や現場見学会等に活用しています。

今後の予定

施工の最終段階となる下り線第2回目の縦取り・旋回・横取り・桁降下作業を進め、グループ一丸となって、無事故無災害での工事完了に努めてまいります。

※CIM…Construction Information Modelingの略称。PCで作成した3次元モデルを中心に関係者間で情報共有することで、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図るもの。



現場全体写真

橋梁形式	▶ 鋼３径間連続非合成箱桁橋
橋　　長	▶ 177.8m
幅　　員	▶ 20.6m
鋼　　重	▶ 3,648t

BIM/CIMを用いて作成した施工イメージ動画はこちら ▶

送り出し架設　縦取り・横取り架設

第1回上り線送り出し完了

第2回上り線送り出し

上り線桁降下

第1回下り線縦取り・旋回・横取り桁地組完了

第1回下り線縦取り・旋回・横取り完了

（現在の状況）
第2回下り線縦取り・旋回・横取り桁地組完了

QRコードより夜間架設の動画をご覧いただけます
※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

連結財務諸表
Financial Statements

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 2024年3月31日現在	当中間 連結会計期間末 2024年9月30日現在
資産の部		
流動資産	146,255	140,555
固定資産	64,590	61,739
有形固定資産	38,830	38,860
無形固定資産	3,335	3,423
投資その他の資産	22,424	19,455
資産合計	210,846	202,294
負債の部		
流動負債	38,297	44,393
固定負債	44,525	32,663
負債合計	82,822	77,057
純資産の部		
株主資本	118,062	119,718
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	9,356	9,496
利益剰余金	102,534	104,020
自己株式	△ 3,263	△ 3,234
その他の包括利益累計額	6,342	5,033
非支配株主持分	3,618	485
純資産合計	128,023	125,237
負債純資産合計	210,846	202,294

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間 連結会計期間 2023年4月 1日から 2023年9月30日まで	当中間 連結会計期間 2024年4月 1日から 2024年9月30日まで
売上高	82,306	72,932
売上原価	69,470	62,994
売上総利益	12,835	9,938
販売費及び一般管理費	5,518	5,942
営業利益	7,316	3,995
営業外収益	399	285
営業外費用	238	688
経常利益	7,477	3,592
特別利益	1,168	1,503
特別損失	51	9
税金等調整前中間純利益	8,594	5,086
法人税等	2,590	1,557
中間純利益	6,003	3,528
非支配株主に帰属する中間純利益	147	△ 4
親会社株主に帰属する中間純利益	5,855	3,532

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間 連結会計期間 2023年4月 1日から 2023年9月30日まで	当中間 連結会計期間 2024年4月 1日から 2024年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,345	2,752
投資活動によるキャッシュ・フロー	443	△ 279
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,947	△ 5,005
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	△ 334
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	873	△ 2,866
現金及び現金同等物の期首残高	25,143	24,988
現金及び現金同等物の中間期末残高	26,016	22,122

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要および株式情報 (2024年9月30日現在)
Corporate Data & Stock Information

会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧(2024年9月30日現在)

代表取締役社長	髙田 和彦
取締役常務執行役員	宮本 英典
取締役常務執行役員	吉田 昭仁
取締役執行役員	中村 譲
社外取締役	黒本 和憲
社外取締役	天野 玲子
社外取締役	神野 秀磨
社外取締役	吉川 智三
取締役常勤監査等委員	廣川 亮吾
社外取締役監査等委員	尾﨑 聖治
社外取締役監査等委員	渋村 晴子
専務執行役員	髙木 清次
常務執行役員	小林 明
常務執行役員	桒原 一也
執行役員	梶 宏人
執行役員	湯川 雅之
執行役員	生越 寿昭
執行役員	高藤 伸治

株式の状況

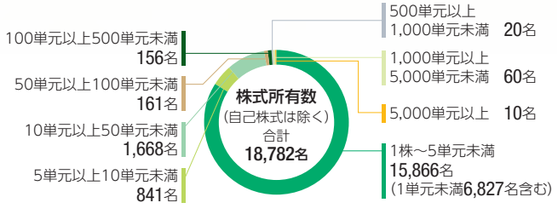
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	43,164,802株
株主数	18,783名

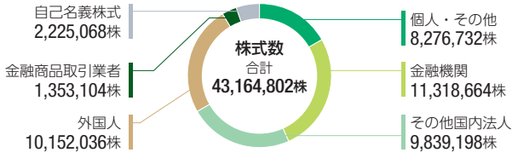
大株主(上位10名)

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行㈱(信託口)	5,005	12.22
㈱日本カストディ銀行(信託口)	3,414	8.34
日本製鉄㈱	1,987	4.85
横河電機㈱	1,676	4.09
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,353	3.30
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	944	2.30
RE FUND 107-CLIENT AC	800	1.95
住友不動産㈱	674	1.64
三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱	666	1.62
日本生命保険相互会社	543	1.32

(注) 1. 当社は、自己株式を2,225,068株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況





株主メモ

事業年度		毎年４月１日から翌年３月31日まで
基準日	定時株主総会	毎年３月31日
	期末配当	毎年３月31日
	中間配当	毎年９月30日
定時株主総会		毎年６月
単元株式数		100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関		東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先		〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話お問い合わせ先		電話　0120－782－031（フリーダイヤル） 受付時間　9:00～17:00（土日休日を除く）
公告方法		電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL		https://www.ybhd.co.jp/

表紙の写真

上灘川橋（かみなだがわばし）

所在地：愛媛県伊予市双海町
鋼　重：1,153 t
形　式：鋼単純細幅箱桁＋
　　鋼5径間連続少主鈑桁橋

上灘川橋は愛媛県伊予市に位置し、松山自動車道伊予IC～内子五十崎IC間のうち約6.3kmの区間における4車線化事業に含まれる橋梁です。
橋長339.5mの鋼単純細幅箱桁＋鋼5径間連続少主鈑桁の混合橋で、架設工法はトラッククレーンベント工法および送り出し工法です。床版形式はプレキャストPC床版であり、床版架設機を用いて設置しました。
2024年10月12日より、上下線を分離した車線の運用への切替が行われており、2025年春頃に4車線化工事が完了する見込みです。
（写真提供　西日本高速道路株式会社）

当社ウェブサイト全面リニューアル

トップページ

サステナビリティページ

当社事業だけでなく、IRやサステナビリティ、ガバナンスなど、より充実した情報を株主の皆様にお届けしてまいりますので、ぜひご覧ください。

アクセスはこちらから

https://www.ybhd.co.jp/

YBHD 株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023　東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111（代表）　https://www.ybhd.co.jp/

VEGETABLE OIL INK